

あなたも高教組へ

2面 ・全国障害児学級&学校学習交流集会
・全国青年教職員学習交流集会



発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

昨年5月29日に国内初のハラスメント対策が法制化されましたが「ハラスメント禁止法」ではありません。そこでのパワハラハラの定義は「①職場の優越的な関係を背景とした②業務上必要かつ相当な範囲を超えた言動により③就業環境を害すること」との3要件をすべて満たした場合とされ、定義・規制範囲を不当に狭めています。これでは同僚間や患者・顧客・乗客などからのパワハラは対象外とさ

主張

ハラスメントのない職場づくりのために
言い分が色濃く出てパワハラをできるだけ認めさせないためにつくられたようです。一方昨年6月に採択されたILOの「仕事の世界における暴力とハラスメント」条約は、断固として仕事の上で

ハラスメントのない職場づくりのために
の暴力やハラスメントを容認しないという強い決意に満ちた内容となっており、日本の経団連が採決に際し棄権したのも肯けます。対象範囲は実習生やボランティア、フリーラン

ハラスメントのない職場づくりのために
の暴力やハラスメントを容認しないという強い決意に満ちた内容となっており、日本の経団連が採決に際し棄権したのも肯けます。対象範囲は実習生やボランティア、フリーラン

ハラスメントのない職場づくりのために
ないなど、個人をリスペクトし対等な人間関係のなかで対話が重視されていることが語られました。形式的な報告書の提出を求められず、長時間の会議がないので、研究に集中でき、日本の会社

ハラスメントのない職場づくりのために
手不足・競争主義で追い立てられる職場で話す暇もない環境がまさにハラスメントを生むのです。お茶を飲む時間とて同僚と対話を余裕があれば、自分と同じ速度で仕事ができる人にも優しくできる職場になり、めったなことではハラスメントは起こらない

ハラスメントのない職場づくりのために
手不足・競争主義で追い立てられる職場で話す暇もない環境がまさにハラスメントを生むのです。お茶を飲む時間とて同僚と対話を余裕があれば、自分と同じ速度で仕事ができる人にも優しくできる職場になり、めったなことではハラスメントは起こらない

育休復帰応援カフェ
2020年3月20日(金)
10時~14時(受付9:30~)
14時以降は予約制(予約フォーム) 予約可
福祉センターアイセル21 3F
【静岡市東区東原3-18】 ☎054-266-6191
参加費 550円(お茶代別)
こんなこと知りたい! 気になる! と思った方は是非お申し込みください

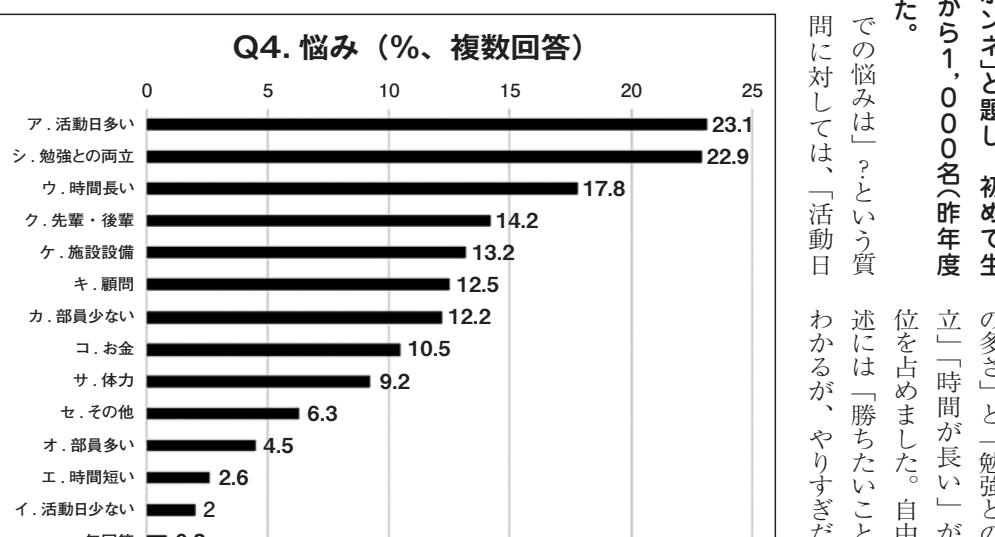
育休復帰応援カフェ
3月20日(金)10時から午後2時、アイセル21子ども室で、第4回育休復帰応援カフェを行います。育休復帰を控えている、現在妊娠中、男性も育休を取りたい、育休経験者の話を聞きたい、復帰後仕事との両立が心配、復帰に向けて準備しておくことは?子どもが体調不良の時はどうする?育休短時間勤務、部分休業のとり方、そのほか使える制度は?など、

育休復帰応援カフェ
参加者には、制度の説明や経験談がたっぷり育休復帰応援ハンドブックをプレゼントします。問い合わせ、申し込みは静岡高教組へ
☎054-254-6900
FAX 054-254-0814
Mail info@s-koukyousho.jp

高教組の輪の中へ!
「子どもたちにどんな力を身につけさせたいですか?」先日の高校教育シンポジウムで、実践報告したベテランの英語教師への青年の質問。自分ならどう答えるのだろうか、と戸惑っている、その先生は迷うことなく即答しました。「構造を理解する力です。構造が理解できれば、どんな英文にも対応できるし、その力が、将来、騙されない力となる」とキツパリ▼たしかに、構造に気づくことは大事。県教委は、国が言うので評価制度をやるしかない、とよく言います。本音は、断固反対の高教組と同じようですが。まるで、首相に付度する官僚のよう。そう、同じ構造。さて、現場では、少なくとも校長がこの制度は意味がないと思いつつ、県が言うので、と、我々を評価してボーナスに差をつけています。また、同じ構造▼さて、宿題。教師は生徒が答えを写すとわかりながら宿題を課す。生徒も、これでは力がつかないと思いつつ、答えを写して提出。期限さえ守ればおとがめなし。そんな場面も多々。これでは、机の上に宿題が積み上がっても、生徒の頭の中には何も積み上がりません。意味がないと思いつつ。あら、これも同じ構造▼良心を脇に置いて、上に従うことが、この国では出世できる条件のようです。しかし、ガンジーは言いました。「しあわせとは、あなたの考えと言葉とおこないが調和していること」そう、我々が学ぶのは、しあわせになるため。意味がないことには反対、これが組合のスタンス。さ、数こそ力、あなたも高教組の輪の中へ!

「聞かせて!部活のホンネ」生徒1,000人からアンケート調査

2019年度は9~10月に「聞かせて!部活のホンネ」と題し、初めて生徒を対象とした「部活動アンケート」を実施。11校から1,000名(昨年度は教職員対象、11分会から210名)の回答がありました。近年、部活動をめぐる実施。11校1,000名(昨年度は教職員対象、11分会210名)の回答があり、教職員の「働き方改革」とはまたちがう、生徒の生の声が集まりました。まず、Q3「部活動は楽しいですか?」という問いに対しては、「まあまあ」「すごく」の合計で7割以上が「楽しい」と答えており、自由記述も併せて見ると、多くの生徒が授業などでは得られない体験による達成感・充実感を感じ、全体としては部活動に対して肯定的評価をしていることがわかります。一方で、Q4「部活動



育休復帰応援カフェ
3月20日(金)10時から午後2時、アイセル21子ども室で、第4回育休復帰応援カフェを行います。育休復帰を控えている、現在妊娠中、男性も育休を取りたい、育休経験者の話を聞きたい、復帰後仕事との両立が心配、復帰に向けて準備しておくことは?子どもが体調不良の時はどうする?育休短時間勤務、部分休業のとり方、そのほか使える制度は?など、

視座
「子どもたちにどんな力を身につけさせたいですか?」先日の高校教育シンポジウムで、実践報告したベテランの英語教師への青年の質問。自分ならどう答えるのだろうか、と戸惑っている、その先生は迷うことなく即答しました。「構造を理解する力です。構造が理解できれば、どんな英文にも対応できるし、その力が、将来、騙されない力となる」とキツパリ▼たしかに、構造に気づくことは大事。県教委は、国が言うので評価制度をやるしかない、とよく言います。本音は、断固反対の高教組と同じようですが。まるで、首相に付度する官僚のよう。そう、同じ構造。さて、現場では、少なくとも校長がこの制度は意味がないと思いつつ、県が言うので、と、我々を評価してボーナスに差をつけています。また、同じ構造▼さて、宿題。教師は生徒が答えを写すとわかりながら宿題を課す。生徒も、これでは力がつかないと思いつつ、答えを写して提出。期限さえ守ればおとがめなし。そんな場面も多々。これでは、机の上に宿題が積み上がっても、生徒の頭の中には何も積み上がりません。意味がないと思いつつ。あら、これも同じ構造▼良心を脇に置いて、上に従うことが、この国では出世できる条件のようです。しかし、ガンジーは言いました。「しあわせとは、あなたの考えと言葉とおこないが調和していること」そう、我々が学ぶのは、しあわせになるため。意味がないことには反対、これが組合のスタンス。さ、数こそ力、あなたも高教組の輪の中へ!

第19回全国障害児学級&学校学習交流集会in兵庫

今、40年前学校に行けなかった子どもたちが 行きたいと願う学校になっているのか



1月11日から13日の3日間、兵庫県神戸市で「第19回全国障害児学級&学校学習交流集会in兵庫」が開催され、全国から約600名を超える教職員や学生、保護者が集いました。

開会式は、障害のある子どもたちのダンスで始まり、1月17日で「阪神淡路大震災」から25年を迎えるこの地で、震災の経験から生まれた合唱が披露されました。その後、障害のある青年たちによる新喜劇に会場は笑いに包まれました。



赤木和重さん(神戸大)は、「障害児教育の魅力を変えて考える」発達理解の視点から」と題した記念講演で、実践や事例を紹介しつつ、改めて発達

ザール「震災遺構を訪ねるフィールドワーク」が行われ、午後は「実践分科会」と「基礎講座」が行われました。てんこ盛り講座や、文化バザールは内容が多岐で、各教室で真剣に話を聞く姿、熱心に制作等にとりくむ姿が見られました。「分科会」では、各分科会で2〜3本のレポートをもとに熱心な討議がくり広げられました。

「教育フォーラム」を行いました。それぞれのフォーラムは、現在の学校の課題と大きく関連する学びの深いものとなりました。(富士特別支援学校 秋山登志夫)

『TANE!』に参加して

2月1日と2日の2日間、東京に全国の青年教職員が集い、学び、交流しました。今年で11回目を迎える『TANE!』は、全国で学んだことを各組織や地域に種として持ち帰り、芽にして花を咲かせようというコンセプトで始まった学習会です。1日目は全体会と校種別・テーマ別分科会が行われました。

2月1日、ロッキーマウンターで開催し、約60人が参加しました。京都の産業カウンセラー鍛冶貝照美さんの「生き生き働ける職場環境をつくらう」と題するお話がありました。職場におけるいじめ・嫌がらせは急増し、精神疾患も40万人を越えて5大疾病のひとつになるほど。自分の感情をコントロールしつつ、相手にポジティブな働きかけをするために、自分の外見を維持する必要がある労働を「感情労働」というが、教師はまさにそれ。やりがいがあるが、クレームやハラスメントにさらされやすく、自分を演じたり生徒の苦しみや痛みに共感するあまりに自分の心も疲れてしまう「共感

疲労」をためやすい。その結果、燃え尽きやうつに。周りが気付き、声を掛けるなど職場の支援体制が必要。緊張を解いて気分転換するには、話して聴いてもらうこと。話すは、「放す」「離す」こと。生き生き働ける職場環境づくりには、人間関係が大事。相手の気持ちを無視して主張を押し付ける攻撃的タイプでも、自分の感情や意見を表現しない非主張的タイプでもなく、相手の立場を尊重しながら自分の意見をしっかりと伝えるコミュニケーションスキル「アサーション」を身につけていくことが大切。ワークシヨップを取り入れながらの楽しくわかりやすいお話でした。

高校教育シンポジウム

トントンデモ教育改革の全体像

児美川孝二郎(法政大学)

1月25日26日に長野県の諏訪市で開かれた高校教育シンポジウムに参加してきました。法政大学の児美川孝一郎さんのお話しを紹介します。

国立大学は、すでに「独立法人化」され、助成金を握る文科省の支配が強まり、文科省の天下り先にもなっています。

その次に、高校を支配すべく打ち出されたのが、「高大接続改革」の名の下に行われようとしている「大学入試改

革」です。大学入試をいじることによって、高校の教育内容を変える本末転倒な政策。以前は、教育政策の決定の際には首相官邸と自民党文教族のせめぎあいがあったのですが、現在は首相直属の私的諮問機関である「教育再生実行会議」の提言を受け、官邸から

のトップダウンで政策が押し付けられるようになってきました。スイスのビジネススクールIMDの「国際競争力年鑑」による日本の順位は、バブル期こそ1位だったものの、2019年は30位。そこで危機感を持つ財界が目を付けたのが、Society5.0、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に次ぐ「社会」。「仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」とのこと。

政財界に後押しされるように文科省は「Society5.0に向けた人材育成」(2018.6)で、「個別最適化された学び」を推奨します。ICTを基盤とした先端技術を導入し、「eポートフォリオ」や「学びの基礎診断」などで生徒たちのビッグデータを集め、公教育の「市場開放」を進めようとしています。すでに頓挫した大学入試の英語試験と国数の記述式問題もその一環。まさに「人格の完成」よりも、産業界の求める「人材育成」を優先させよう

としています。文科省が描く未来では子どもたちがデバイスプレイに向かい、AIが与えるドリルをこなし、担任教師がその進捗状況をモニターで把握する。そして、次の授業の指導案や教材はAIが送ってくる……

は分断され、搾取されていくでしょう。さらに新学習指導要領で、学校教育全体の「道徳化」をすすめる、予想される学力格差による歪みを抑え込む。まさに、トントンデモ教育改革！

今こそ、我々教師は、より豊かな教育実践を目指し、子どもたちのためのまともな学び場を守るために、子どもだけでなく、保護者や市民と手をつないで、たたかわなくてはならないでしょう。(渥美二郎)

子ども主体の実践を目指して

鈴木 苺

私たちは日頃、子どもを軸においた教育実践ができていないでしょうか。忘れがちである実践の根本を私たちに問い直してくれたのが、竹沢清先生の講演でした。竹沢先生は元愛知県豊田中学校教師で、厳しい管理主義教育の下で子どもに寄り添い続け、実践記録を書き続けました。

子どもの問題行動を「屈折した願い」と捉え、大人が問題行動を躍起になって止めるのではなく、深いものとなりました。(富士特別支援学校 秋山登志夫)

臨時教職員 学習交流のつどい 静岡

静岡

1月25日(土)、26日(日)に、静岡市内で開かれ、県内外から10名が集まりました。初日のパネルディスカッションとグループ交流では、正規教員との待遇の差や採用選考審査などへの率直な思いが語られました。夕食大交流会は近くの居酒屋に場所を移し、おおいに盛りあがりしました。

2日目は、採用制度の改善、労働条件改善と任用保障など4つのテーマで学習と交流を深めました。



TANE!参加者 全員集合